

提出締切：2010年5月20日（木）

2009年度採択 研究推進プログラム「科研費連動型」 研究成果報告書

研究代表者	所属機関・職名： 氏名：	立命館大学産業社会学部・教授 佐藤 春吉
研究課題	多元主義的存在論による新しい批判的社会理論の開拓	

・研究計画の概要

研究の計画について、平成21年度科学研究費補助金申請時の計画概要を記入ください。

「多元主義的存在論」とは、私のオリジナルな理論構想を表現するものである。現代の哲学ならびに社会理論の動向は、認識論的観点から優先する主観主義的傾向の影響を強く受けている。このような主観主義的諸前提からは、諸個人の主観を超える社会の客観的な諸構造の存在論的位置を明確できず、社会的出来事の取り返しのきかない厳密性という人間社会における諸行為のもつ倫理的問題構造さえ理論的にはがうまくとらえられなくなる。近代のデカルト以来根拠主観主義の傾向に侵食されて、現代の社会科学においては、実在論をきちんとした基礎をもって論じることの重要性を軽視し実在論への根拠のない不信と、根拠のない主観内部の知の「内的親密性」によりかかって「安心」を得る委縮状態に陥っている。本構想は、このような近代以来深まってきた主観主義的な閉塞状況を克服し、世界の現実性と多元性を承認する実践的批判的実在論へと社会科学の方向を転換させ、新たな批判的社会理論の基礎固めをおこなうことを目的としている。この存在論の方向に向けた理論的探求は、社会哲学および社会学理論の刷新という意味で大きな意義があるものと考えている。それは、私なりにマルクスの社会的存在論の思想を探り出すなかで着想されたものであるが、マルクス思想とは全く異質とも言える K.R. ポパーや M. ヴェーバーの獨特の自由主義思想のなかに多元主義的存在論の基本構想を析出する作業と結びつけられるものである。また、哲学的には、多元主義的存在論を深く探求しているニコライ・ハルトマンの存在論から学びとり、その社会理論への応用発展を目指している。この他に、実在論的社会科学の構築を目指す運動は、バスキアのイギリスの「critical realism」の研究グループによっても志向されている。本研究は、この派の研究からも批判的に学び、それを超越する理論構想に育てていくもくろみを持っている。今年度は、M. ヴェーバーの多元主義的存在論の思考を読み解く研究を継続すること、Critical Realism の批判的研究を進めること、にした。

・研究成果の概要

研究成果について、概要を記入ください。

本年度は、ヴェーバーにおける多元主義的存在論の思考の析出と、Critical Realism の批判的研究、心身問題についての議論状況の把握を中心に研究を進めた。ヴェーバーについては、ヴェーバーの理念型概念について、客観的現実の反映ではなく、現実と理念型とは異質的であるとして両者の断絶が主張されている。このヴェーバーの主張が、認識論的な断絶と捉えられ現実を主観において構成することが社会科学的認識であると主張するものと誤解されてきた。ヴェーバーのこの主張は、なんら認識論的な断絶としてではなく、概念（主観的世界）と現実（客観的因果世界）との存在論的断絶として理解されうることを論証するための作業を進めてきた。存在論的断絶であれば、概念についての主観構成説の存在論的意義が明らかになり、同時に社会的現実についてのヴェーバーの実在論的解釈と整合する。この点を、論証的に論じる展望は明らかになってきているが、諸般の事情で、今期は、まだ論文化できていない。Critical Realism に関する批判的研究を継続し、同グループから Bhaskar の Spiritual Turn を批判する文献、マルクス主義との関連を論じた文献などを中心に研究した。心身問題については、多元主義的存在論にとって、主観の意識的活動の存在論的次元と物質次元との関連を扱う重要論題になる。近年の議論状況についてサーベイし、ポパーやバスキア、ハルトマンの議論を現代の議論状況の中にどのように位置づけられるか、おおまかな見通しを得ておく必要が生じ、検討する作業を行った。

本ページはホームページに公開いたします。1ページに収めてください。